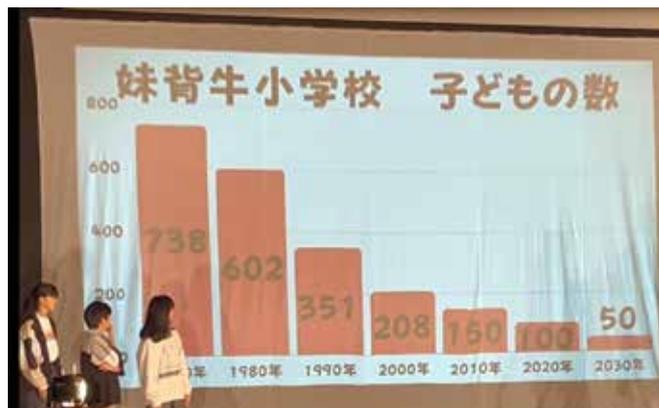


妹背牛小6年生が「未来への提言」 学習発表会で



少子化が進む妹背牛の未来やまちづくりについて、自分たちの考えを発表した6年生

妹背牛町の課題について学んできた小学6年生が10月12日、未来のまちづくりに向けた自分たちの考えを学習発表会で披露し、保護者や地域住民、教育関係者の注目を集めました。



授業「未来への提言」

地域課題をテーマにした授業は、理事者らに一般質問する子ども議会の開催にまで発展し、まちづくりについて考えてきた子どもたちの理解をさらに深めました。

上記2枚の写真は、学習の成果をまとめた学習発表会のステージでお披露目した看板デザイン。牛と温泉をモチーフに画像生成AIで作成したイラストで、統一感を持たせました。

6年生10人は、社会科と総合的な学習の時間で、地域課題について勉強。魅力あるまちづくりに向けたアイデアを出し合い、9月の子ども議会で発表しました。学習発表会の演目「未来への提言」は、5年後の小学校を舞台に、妹背牛の未来を変えるため、子どもたちが町長に話を聞きに行くというストーリー。一連の学習成果をまとめ、議会答弁の映像とともに劇中で報告しました。妹背牛をPRする看板の設置を提案した子どもたちは、町の魅力をサンプルに伝えた自作の看板デザインをお披露目。最後に、「都会のような華やかさだけでなく、田舎の良さを生かしたまちづくりも大切」などと授業内容を総括すると、大きな拍手が送られました。

となりの外国人

担当：グエン・カン・リン

ベトナム人の地域おこし協力隊員が町内の外国人を紹介する企画です。

今月号では、ベトナム人技能実習生の家庭菜園について紹介します。セロリやツルムラサキ、ヨウサイなど、たくさんの野菜があり、同じ家に住むみんなと一緒に育てています。

これは妹背牛町に住んでいる技能実習生の楽しみの一つです。ベトナムの田舎で生まれ育ち、数年間軍隊にいたグエン・ゴック・ドゥックさん(23)は、自給自足の生活を送り、野菜作りの経験が豊富。今回の家庭菜園について、インタビューさせていただきました。

「雪解けから約1カ月半後、5人で土地を耕し、スーパーで買った種をまきました。10月末までに全ての野菜を収穫します」とドゥックさん。

ベトナムにも分かち合いの精神があり、全部の野菜を食べられない時は、ほかのベトナム人に新鮮な野菜を配って、喜ばれています。

ドゥックさんは妹背牛町で暮らして2年目。

「最初の1年間は、あいさつの仕方や新しい生活に適応しなければならぬことがたくさんあり、大変でしたが、とても充実していました。この安らかな町での新しい経験は、自立心を高めます。もっと自立して、いい大人になって、家族の面倒を見ようと思っています」と話しました。



家庭菜園の野菜を収穫するドゥックさん